NIE実践報告

1．タイトル：☆ファミリーフォーカスに取り組もう

2．学校名

山形県山形市立第八中学校

3．実践者名（代表者名）

小松真由美

4．学年

第1学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

総合的な学習の時間　68人

6．単元（本時の学習課題）名

「いのち」を考える

7．目標（狙い）

新聞を家族と一緒に読んで話し合うことにより、視野を広げる。特に「いのち」についての異世代の感じ方を知る。

8．評価の視点

(1)新聞から「いのち」に関する記事を見つけることができる。(2)家族で読み合うことによりさまざまな観点からとらえた記事があることを知る。(3)記事のとらえ方は性別・世代によって違いがあることに気づく。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

1.「いのち」に関する新聞記事を探し、家族で話し合う(3時間)
2.レポートを書く(2時間)

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

(1)助産婦を講師に招き、「大切ないのち」について考える。(1時間)
(2)いのちに関する新聞記事を探し、誕生・死・事件や事故・人生・夢・動物・宇宙・家族愛などさまざまな観点からとらえられていることに気づく。(1時間)
(3)記事を家に持ち帰り、家族で話し合う。(1時間)
(4)レポートにまとめる。(2時間)
(留意点)
・家族の状況や、生徒が抱えている諸事情を考慮して、無理のないようにする。
・学級・学年に広げることにより、学びを深める。
・自分の日常生活とかかわらせて考えさせる。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

同じ記事でも、年代によって全く違う見方をしていた。家族の中でも違う記事を選んでいて、コメントを読むのが面白かった。祖父・祖母の感想が深くて読んでいてとてもためになった。小さい子のコメントは素直だ。

12．成果と課題

生徒の視野が拡大した。自分の立場からものごとを考えることが多かったが、より深い多角的思考ができるようになった。自分からは目を通さないような難解な記事も家族の書いたコメントを読むことで、目を通すようになった。新聞には予想以上に「いのち」に関する記事が多くて、整理するためにジャンル分けするとよいことに気づくことができた。ファミリーフォーカスをすることで、家族間の対話が増えた。
準備や新聞を読むのに多くの時間がかかり、教育活動の中での時間確保が大きな課題である。